

南部地域の春どりキャベツ収穫

【平成30年5月22日掲載】

呉市安浦町の中谷道宣（なかに みちのぶ）氏は、5月4日から春どり（4～5月収穫）キャベツの収穫を始めています。ほ場面積は約30aで、5月中旬まで15t程度を収穫する見込みです。

南部地域における春どり栽培は、とがり玉や抽苔による品質低下、菌核病の多発により良品生産が難しく、品種選定と菌核病対策が主要な課題でした。

そこで、平成27年度から春どり栽培の安定生産を目標として、中谷氏のほ場に展示ほを設置して調査を続けてきました。その結果、品種「さつき王」、「さつき女王」はとがり玉の発生が見られず、抽苔しにくい品種であること、菌核病は選択性の高い薬剤により発生を防ぐことが可能であることを実証しました。こうした成果を生かして、今年は5t以上の単収を確保できる見込みです。

中谷氏は、ミニトマト0.1ha、露地キャベツ1.8ha、スイートコーン0.9haを栽培していますが、今後は現在の作型にこの春どり栽培を加えたキャベツの長期安定生産（11～5月出荷）を目指しています。

当所では、調査結果をまとめて技術的な最終整理を行うとともに中谷氏の長期安定生産に必要な農地集積に向けて、関係機関と連携して支援をしていきます。



【キャベツほ場】



【収穫時期のキャベツ】